

立命館守山中学校・高等学校 2024 年度学校づくり総括

教育目標

(1) 教育目的	「自由と清新」「平和と民主主義」を体現する知的好奇心と創造性を有し、多様な価値観を持つ他者と協働しながら新たな価値・ルールを社会に提案・実装し、社会に希望を生み出す人（Game Changer）を育成する。
(2) 教育目標	① Critical Thinking（批判的思考スキル） 「常識」に囚われることなく、多角的な視点を持ち、論理的・主体的に思考・判断する力 ② Creative Thinking（創造的思考スキル） データやテクノロジーを活用し、新たなアイデア・解決策を発想・デザインする力 ③ Communication（コミュニケーションスキル） アイデアを様々な手法で発信・表現すると共に、議論・対話を通じて課題解決をはかる力 ④ Collaboration（コラボレーションスキル） 多様な価値観の違いを前提に、他者を尊重しながら、チームとして協同する力

中期目標（上位目標）

I. 全校対話による学校ミッションのアップデート
II. 生徒の学び続ける力が育つ授業創造と中高一貫教育システム構築
III. 生徒の自律と他者承認、民主的組織運営マインドを涵養する支援・指導
IV. 生徒の自律を軸とした保護者・同窓生・社会との連携
V. 同僚性の向上と学び続ける教職員集団の形成
VI. 生徒が学び続ける力を育む施設環境の整備・充実
VII. 入試広報の政策化と学校規模の適正化

I. 全校対話による学校ミッションのアップデート

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	教職員間の対話による学校ミッションのアップデート	(1)	昨年度来の懸案である「高校3ポリシー」の策定と公開	◎
		(2)	校内研修における対話・リフレクシオンスキルの向上	◎
		(3)	対話やコミュニケーションツールを活用した学校ミッションの検討機会の保障	◎
2	学校ミッションと教職員の個人ミッションの接点を通じたジブンゴト化	(1)	校務運営委員会の後半時間を活用した、ミドルリーダーレベルでの意見交換の実施	○
		(2)	「学校ミッションのジブンゴト化」をテーマとする合同教員研修会の設定	◎
		(3)	執行部と教員との第2回面談において上記テーマを中心に据えたヒアリングの実施	◎
3	生徒・保護者の意見をふまえた全校対話による学校ミッションの深化	(1)	生徒会役員との校長懇談会における意見交換の場の設定	◎
		(2)	PTA 本部役員と学校執行部との懇談会における意見交換の場の設定	◎
		(3)	アップデートした学校ミッションの生徒への共有	○

II. 生徒の学び続ける力が育つ授業創造と中高一貫教育システム構築

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	「教員が教え込む授業」から「生徒が学ぶ授業」へ転換する研究と実践	(1)	合同教員研修、公開授業週間、夏季校内研修等の機会を活用した授業研究の活性化	◎
		(2)	寺子屋（放課後自習教室）の効果的活用と検証をふまえた「主体的学び」促進策の検討	◎
		(3)	探究学習の社会実装化、成果の外部発信	◎

2	学び続ける力が育つ教育システム・学習評価のあり方を検討	(1)	各教科における学習評価方法の研究および検証・見直し	○
		(2)	高校の学年制・学期制の見直しの検討の継続	○
		(3)	大学への学内推薦における校内選考特別枠（ゲームチェンジャー枠）の具体化	◎
3	中高6年間を通じた学び続ける力の育成促進	(1)	世界をめざす生徒を輩出する国際教育環境の充実	◎
		(2)	SSH 認定校指定校としてのサイエンス教育の実践	◎
		(3)	FT を中心とした難関他大学への進学支援	◎
		(4)	クラブ活動を通じた生徒の成長促進（リーフラスとの連携）	◎

Ⅲ. 生徒の自律と他者承認、民主的組織運営マインドを涵養する支援・指導

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	受容的・共感的コミュニケーションで教員・生徒の信頼関係を構築	(1)	受容的・共感的コミュニケーションを学ぶ教員研修の機会を設定、成果の普及	○
		(2)	各学年単位による個人面談機会の設定をはじめ、生徒が教員に相談しやすい環境づくり	◎
		(3)	保健室を中心とした生徒の居場所づくりと支援体制の充実	◎
2	課題予防的生徒指導により、生徒の自律と他者承認を実践	(1)	包括的性教育に関する6学年のプログラムの系統的实施	◎
		(2)	SNS・薬物に関する予防教育として警察連携による啓発機会の設定	◎
		(3)	生徒間のいじめや人権侵害行為に対する迅速・丁寧かつ毅然とした指導・支援	◎
3	ルールメイキングの活動を全校対話による民主的組織運営を学ぶ課題として実践	(1)	生徒部教員による生徒会所属生徒への日常的な指導・援助による生徒の主体性伸長	◎
		(2)	学校行事の参加・運営を通じた生徒の成長促進	◎
		(3)	研修や活発な議論を通じた校内ルールに対する教員間の認識共有化	◎

Ⅳ. 生徒の自律を軸とした保護者・同窓生・社会との連携

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	生徒の自律を軸に据え、保護者との対話を通じた信頼関係の構築	(1)	担任団を中心に保護者との積極的コミュニケーションを通じた生徒の成長支援	◎
		(2)	新入生保護者対象の親業講演会・講座の開催、子育てを学ぶネットワークの形成	◎
		(3)	PTA 常任役員・学級役員と執行部との定期懇談を通じた信頼関係の構築	◎
2	20周年を期に、同窓生・保護者リツモリサポーターを組織、生徒のキャリア形成を支援	(1)	2026年度開催予定の20周年イベントに向けた卒業生の組織化	◎
		(2)	卒業生保護者の「リツモリサポーター」組織化	▲
		(3)	卒業生・保護者による生徒のキャリア形成支援の具体化	○
3	地域との教育連携ネットワークを形成し、生徒の学び続ける力を支援する環境を構築	(1)	守山市のロータリークラブや親睦会を通じた、地域の企業・団体との信頼関係構築	◎
		(2)	生徒のインターンや探究学習を通じた地域の企業・団体との教育連携の促進	◎
		(3)	教育連携締結企業との連携事業の推進	◎

Ⅴ. 同僚性の向上と学び続ける教職員集団の形成

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	相互批判・援助による同僚性、対話による合意形成の気風、チーム力の向上	(1)	合同教員研修の月例化、夏季校内研修の充実、新任研修を通じた相互の学び合い促進	◎
		(2)	定例合同教員会議の廃止と学年・分掌会議の定例化を通じた議論の活性化	○
		(3)	生徒支援を充実させる観点からのチーム担任制度の不断の見直し	◎

2	教育論、社会人基本マナーの研鑽に努め、教員の学び続ける力を鍛錬	(1)	全教員の社会人基本マナー、来客へのホスピタリティ向上のための研修実施	○
		(2)	教員が社会情勢や教育論を学び交流する機会の設定	◎
		(3)	教員が主催する校内自主研修会の奨励	◎
3	業務改善、余白時間の捻出、授業と生徒支援の充実、働きがいの向上	(1)	各学年・分掌・コース・教科における廃止を含めた大胆な業務見直し・改善	○
		(2)	クラブの外部委託化のいっそうの推進、顧問制度のあり方検討	◎
		(3)	教員以外の人材活用、大人定数コンセプトによる新しい教職協働の推進	◎

VI. 生徒が学び続ける力を育む施設環境の整備・充実

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	2030 将来構想に基づく、施設改修の第2次アクションプランを策定	(1)	教育内容・システムの検討と並行して中学棟・高校棟の改修計画の具体化	○
		(2)	ラーニングコモンズや特別教室改修、教員室改修計画の具体化	○
		(3)	アイリスグラウンドの全面改修	◎
2	空間共有システム、天体望遠鏡等、大学から支援を受けた最先端の学習環境を活用	(1)	理工学部支援による空間共有システムの効果的活用の促進	◎
		(2)	天体望遠鏡の活用を通じた ESEC（立命館大学宇宙地球探査研究センター）との連携促進	◎
		(3)	2 号館をサイエンス棟として充実させる計画の検討	○
3	生徒が安心して学校生活を送れる環境の実現、校内防犯システムの強化計画を策定	(1)	2025 年度校内防犯システムリニューアルに向けた計画の策定	◎
		(2)	リニューアルまでの現行システムにおける防犯システムの有効活用	◎
		(3)	守山警察署との学警連絡制度の有効活用	◎

VII. 入試広報の政策化と学校規模の適正化

中位目標		達成目標（当年度目標）		評価
1	20 周年を節目に本校の教育的魅力を効果的に伝える広報戦略を策定、実行	(1)	WEB・既存メディア活用による教育の魅力発信	◎
		(2)	卒業生活躍動画「リツモリミライ」の充実	◎
		(3)	「校長室ブログ」を開設し、校長からのメッセージを掲載	◎
2	成果を挙げてきた中学校・高校それぞれの入試戦略を踏襲・堅持	(1)	優秀かつ多様な能力を持つ入学者の確保	◎
		(2)	高校奨学金の対象広域化に向けた政策検討	▲
		(3)	入試不合格者の成績レベル開示による入試結果の透明化	◎
3	中学校教育の新展開をふまえた、学校規模適正化	(1)	中学・高校入試における推薦枠のあり方の見直し	◎
		(2)	中学定員 160 名 4 クラス化に向けたコース設計の見直し	◎
		(3)	学則定員への学校規模適正化による財政政策の検討	○

※ ◎：目標を十分に達成した。
○：目標をほぼ達成した。
▲：目標の達成は不十分であった。

達成状況

- ① 【探究】探究学習を通じた社会課題解決への問題意識から、仲間を組織または個人で全国レベルの探究コンテストに応募し、上位入賞する高校3年生が複数誕生した。また、別のコンテストでは、全国からの応募4,000件から本校高校3年生49件がセミファイナリストに選出される等、裾野の広がりが見られた。中高6年、高校3年間にわたる探究ストリームの成果であると言える。
- ② 【グローバル】中学3年海外研修（加・豪・NZから選択）では、ショートコース（16日間）およびロングコース（43～65日間）を実施し、ロングには34%が参加した。高校2年海外研修（世界7コースから選択、FTはNY）では、パリコース、クラクフ・ベルリンコース、自ら立案・企画化する超探究コース（1名）を新設し、約10日間の探究型研修を実施した。トビタテ留学を含め57名を長短期の留学に派遣、96名の受入を行い、生徒の多文化環境を創出した。また、中国湖南省長沙市の高校と新たな教育提携を結んだ。
- ③ 【サイエンス】SSH認定校指定校として、理工系学部との連携によるBKCでのサイエンスAP授業、理工学部からの支援によるものづくりラボの充実、ESECとの連携による天体望遠鏡を使った天体観測会の開催、各種フィールドワークの実施を通じて、サイエンス探究の学びを展開した。サイテック部内高校2年生チームがRoboCup2024で初の世界一を達成した。立命館大学への理系進学率は3割前後で推移しており、いっそうの理系進学促進が必要である。また、中学サイテック部が環境に配慮した新素材を開発するピエクレックス株式会社が共同で取り組む堆肥作りプロジェクトに取り組んだ。
- ④ 【DX】ライフイズテックとの連携により高校入学生対象に実施したOne Day DXキャンプを通じて、高校生のモチベーションとDXスキルが向上した。また、経産省未来の教室事業であるAIを活用した探究学習の実証実践に協力した。
- ⑤ 【生徒自治】中学では生徒会役員選挙において2年連続で20名以上が立候補し、高校では生徒主体の行事運営が確立、ルールメイキングによる校則見直しの対話が活性化する等、学校全体として生徒の当事者意識が高まり、リーダーが育ってきている。
- ⑥ 【生徒自治】中学・高校ともに、体育祭、文化祭、合唱をはじめ各学年の独自企画を通じて生徒の主体性伸長、人間関係づくりを意識し、生徒の成長を促進した。
- ⑦ 【教育支援】保健室を中心とした生徒の居場所づくりと支援体制の充実をはかり、SG、SSW、スチューデントサポーターとの連携をすすめた。また、防災キャンプ実施やメタバースとAIを活用するデジタル保健室の実践をすすめ、デジタル保健室では文部科学大臣賞を受賞する成果を挙げた。
- ⑧ 【課外活動】中学・高校ともにクラブ活動・個人活動のレベルが向上し、高校サイテック部世界優勝、中学個人活動の全国優勝をはじめ、多くのクラブが全国大会で過去最高の成績を挙げる等の活躍が目立った。
- ⑨ 【学内進学】探究活動を通じて、高い問題意識をもって立命館大学・APUに進学する生徒が増加している。次年度実施予定の、校内選考において探究活動を評価する特別校内選抜枠（Game Changer 枠）の具体化を検討した。
- ⑩ 【他大学進学】FTコースを中心に、他大学進学の結果（現役生合格）は以下の通りであった。
京都大農、大阪大2（基礎工学、人間科学）、神戸大4（経済、文、国際人間科学2）、一橋大商、九州大工、岡山大2（文、歯）、大阪歯科大2、大阪公大現代システム科学、早稲田大2（教育、商）、慶應大4（法、商、看護医療、環境情報）他
- ⑪ 【教員間対話】教員研修やレビューの場を対話形式とするだけでなく、「対話の方法」をテーマに取り上げた夏季研修を開催した。また、中学ではキャリア・研究部を中心に、授業における「対話」の意義・方法を一貫するテーマに設定し、研修を行った。
- ⑫ 【保護者対話】学校執行部とPTA役員との懇談会を学年毎に開催し、率直な意見交換を行い、参加した保護者からは好評を得た。また、新入生保護者対象親業講演会、希望者対象の親業セミナーを開催し、自立した子どもに育てる方法について対話形式で学んだ。
- ⑬ 【入試】厳しい入試情勢の下、中学では志願者740名（入学者168名）となり、志願者増により「かがやき」入試は認定1.7倍と難化した。また、一般受験第1志望層が149名と過去最高を更新した。高校では志願者336名、合格者の内申点・受験結果から入学者レベル向上の見込みとなった。
- ⑭ 【広報】守山警察署×高校吹奏楽部コラボ動画が38万回再生と好評を得た。JR守山駅に駅名表示風看板を設置した。法人広報課の協力によりαステーションで共創探究の実践を紹介した。

改善策

- ① 【探究の質的量的充実】探究活動が全生徒の課題となる中、一人ひとりの探究内容の質的向上とともに、フィールドワークスキルの向上をはかる必要がある。教員の探究指導力向上、試行中のAIアドバイスの効果検証とともに、基幹授業において生徒が主体的・探究的に学ぶ授業スタイルの確立等、質的量的な充実をはかる。
- ② 【リスペクト・対話・合意形成】SNSが飛躍的に進化する下、生徒同士の人間関係構築力の育成を意識的に追求する必要がある。新たな教育目標「4つのリスペクト」を生徒のみならず教職員間の課題としても位置づけ、教員の共感的・受容的コミュニケーション力の向上、相互に相手を尊重し、対話による合意と問題を解決する風を、学校全体に確立する。
- ③ 【DXスキル】DXハイスクール指定を機に、生徒のDXスキル習得・活用力の伸長を、情報授業のみならず探究活動に位置づけて、意識的に追求する。
- ④ 【将来構想】2030後半期計画構想として、来年の20周年イベントを節目とする2027年度教育課程改革と環境整備のプラン具体化を2025年度前半期までに実行する。

学校関係者評価に関する事項

委員会 構成	<委員> ○辻本 長一（守山市教育委員会教育長） ○大崎 裕士（守山商工会議所会頭） ○眞下 忠（神港精機株式会社取締役会長） ○亀田 晃巖（唯明寺住職） ○松浦 博（滋賀医科大学学長） ○高山 茂（立命館大学理工学部部長） ○久野 信之（立命館一貫担当常務理事） ○中島 智宏（立命館守山中学校・高等学校 PTA 会長） ○渋谷 成子（立命館守山中学校・高等学校 早苗会相談役） <学校参加者> ○岩崎 成寿（立命館守山中学校・高等学校 校長） ○箭内 健（同・副校長） ○森園 崇司（同・副校長） ○藤田 直孝（同・事務長）
開催日程 主な議題	第1回：2024年7月4日(木) ・2024年度学校づくり方針について ・学校目標について ・生徒の活躍について 第2回：2025年3月13日(木) ・2024年度立命館守山中学校・高等学校2024年度学校づくり総括（案） ・生徒の活躍について
評価・改善 事項	第1回で出された意見： ① 教育目的、目標から演繹的にカリキュラム設計を行なうことで、個々の授業がどう Game Changer の育成につながるのかが理解出来る。 ② すばらしい教育目標であるがこの指針が生徒に届いているか、また方針を組織全体が理解していることが重要。 ③ 防犯システムリニューアルが達成目標に挙げられていることが重要。 ④ 学校づくり方針「ジブンゴト化」は是非とも進めてほしい。琵琶湖を取り上げてほしい。 ⑤ 指示待ちが解消され生徒が自分から意見を言えているように感じた。 ⑥ 環境の良さを当たり前と捉えず、感謝できる様になってほしい。将来は世界のリーダーになってほしい。 ⑦ リズムリは滋賀県トップ校として他校教員からも高く評価されている。 ⑧ この学校の存在意義が重要、ミッションの中身を教員が共有することが一番大切。 ⑨ 広報、見せ方も大変に重要。 ⑩ 探究型のアクティブラーニングを立命館の附属校はやってきた。日本の先進を実施してことに確信を持つべき。 第2回で出された意見 ① 設立当初から見て、当初の目的は達成した。世界のリーダーとなる様な人材が育成できたと自信を持って良い。 ② 立命館守山もここ数年で大変成長したと感じている。 ③ 社会課題への取組や企業連携など実社会との関わりは素晴らしい。 ④ 多様性が求められる中、専門性も高まっていくが自身の考えを伝えることが重要となる。こうした点において良い取組をされている。保護者を上手く巻き込んで取り組んでいる点も高く評価できる。 ⑤ 主体的な学びや探究などと、教養的な学び、両方が大切である。少数意見や意見が言いにくい人達にも配慮することが大切だ、十分に留意すべき。 ⑥ 思春期なのでいろいろとある時期である。大人が支えて個性が活かされれば良い。やはり人間力が一番重要で、そこで左右される。そこを養成してもらいたい。 ⑦ 学校の目標や価値観を学校全体、教職員間で共有することが重要である。 ⑧ 教育目標はきっちりと周知することが重要。理念がぶれると組織は衰退する。